

体験博物館 千葉県立房総のむら館報

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・住・技の移り変わりを、当時の環境の中で、来館者が直接体験することができます。

開館時間 9:00～16:30
休館日 月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）
年末年始（2018年12月25日～1月1日）

入場料 一般300円（240円） 高大150円（120円）
※中学生以下と65歳以上無料。
※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名無料。
（ ）は20名以上の団体料金

版 瓦 大 本 戸

Kawaraban OKIDO

Vol.60

2018年（平成30年）3月31日

編集・発行
千葉県立房総のむら 指定管理者
公益財団法人 千葉県教育振興財団 房総のむら
〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028
TEL.0476-95-3333
<http://www.chiba-muse.or.jp/MURA/>



会場では団体体験や貸し出しキットを詳しく見るすることができます

房総のむらでは毎年四百校を超える学校団体が訪れ、さまざまな体験や学習活動を楽しみ、親しんでいただいているところです。

学校向けの事業として、統合以前の房総風土記の丘（資料館）では、古くから多くの学校団体を受け入れていましたが、房総のむらでは、平成七年度から「学校団体を対象とした学習会」を開催し、現在の団体体験に近い態勢が始まりました。ただ、その内容は展示資料を題材としたワークショップを作成し、その解答・解説を館職員がスライド映写機により行うもので、現在の製作体験を中心としたものとは少し異なっています。

トピックス展「学校と博物館」



いました。

平成十二年度から段階的に小・中学校のカリキュラムに「総合的な学習の時間」が組み込まれ、さらに学校五日制の導入、「ゆとり教育」などの学校教育をめぐるさまざまな動きがあり、大きく様変わりしてきました。こうした動きに対応して、解説を聞いた後で、生徒さんたちに体験を行ってもらう、現在の「団体体験」になりました。

団体向けの体験は農家、商家、武家屋敷、風土記の丘資料館の四施設で行う十種類と、田植え・稲刈り・脱穀などを行う農業体験、伝統技術を学ぶ七種類の体験があります。

このほか歴史（社会）や科学（理科）の授業に役立てていただく取り組みとして、縄文施紋具キットを使用した出前授業、体験キットの貸し出しを行っています。

平成二十七年からは、学校の協力を得て、当館の事業を進める取り組みも始まりました。

その代表的なものが「房総のむらから始まる江戸野菜プロジェクト」です。下総高校と成田西陵高校の協力を得て、伝統（江戸）野菜の栽培と研究成果を発表していただき、房総のむらは生産物を販売する企業（取引先）の橋渡しをして、お互いの目標を達成することができました。また、平成二十八年度からは、麗澤大学の協力を得て、

外国人向けの職員研修を行っていただいたほか、学生さんには外国人向けの案内や日本文化の説明をする授業に、房総のむらというロケーションを提供し、授業に役立ててもらっています。

さらに本年度から東京聖徳大学の協力のもと、「平安装束体験」を行いました。滅多に着ることができない、十二種類の平安装束を着るだけでなく、装束についての解説もしていただきました。年末には成田国際高校の協力を得て、吹奏楽部の生徒さんによる「プラスバンドコンサート」も行うことができました。どちらにも、来館者に変喜んでもらうことができました。この二演目は来年度も開催を予定しております。

本トピックス展では、房総のむらを利用してきた学校の事例と、博物館をどのよう利用にどのように応えてきたのかを紹介しています。

●会期：平成三十年三月十日（土）～六月十日（日）



茶道体験は台湾の修学旅行生にも人気があります

上総の農家

「むらの災いよけ」

来年度、上総の農家では「むらの災いよけ」の予約体験を行います。

「災いよけ」とは、むらの中に災いが入らないよう願いをこめ、むら境に綱を張ったり人形を作ったりして、災いを封じる行事です。

房総のむらでは、多数の災いよけに出会うことができます。上総の農家へ向かう途中に張られた「綱つり」、下総・安房の農家に向かう途中には「かしま人形」や、「大ムカデ」、「蛇」などをかたどった「辻切り」といった、千葉県各地の災いよけを再現しています。

一般的に災いよけ行事は正月から二月に行われることが多く、房総のむらでも毎年二月に館内の災いよけを新しく作り替えています。

「むらの災いよけ」の予約体験では、上



1. 上総の農家に向かう途中の綱つり（右から2番目がたこ）

総の農家へ向かう途中に張られた「綱つり」の中から、「たこ」を作ります。「たこ」を吊るすことには、「災いを吸い取る」という願いが込められています。

この「たこ」ですが、作る際にコツが必要で、頭部の形が肝心。わらを丸めたものをわらで包んで形を作るのですが、わらを詰めすぎると頭でつかちになって足が短くなったり、詰め方によっては、頭が縦に伸びてスリムになったりと、作り手それぞれの個性が出ます。

玄関先に吊るせば家の災いよけに、家中に吊るしても刺激的なインテリアになることでしょう。



2. たこ 足は左ないで作ります

ぜひ自分ならではの「たこ」を作ってみてください。

むらの災いよけ

体験日・平成三十一年三月十日（日）

体験時間・十三時十五分～十五時十五分

定員・五名

※体験予約開始は平成三十年十二月四日からです。

（農家グループ 長谷川）

風土記の丘資料館

「原始・古代のアクセサリー作り」

風土記の丘資料館での通常実施している体験は十九種類あります。このうち、原始・古代のアクセサリー作り体験は五種類ですが、体験実施日数全体の六割近く占めており、中心的な体験となっています。これは、どなたにでも気楽に参加できること、容易に作り上げられることが大きな要因となっているかと思えます。そして、出来上がった作品の素朴な味わいも多くの方々に気に入って頂けているようです。

アクセサリー作りには「勾玉作り」・「琥珀作り」・「大珠作り」・「貝のアクセサリー作り」・「鹿角製ペンダント作り」があり、「勾玉作り」と「琥珀作り」が特に人気です。勾玉は独特の「形」に惹かれるようです。数千年以上前から引き継がれてきた形ですが、その起源が未だに不明です。「月」・「牙」・「胎児」を形取ったという説



上段左から、勾玉、琥珀玉、大珠、鹿角、貝

が有りますが定かでは有りません。いずれにしても神秘的で魅惑的な力を携えた形であることは想像できます。一方の琥珀玉は、琥珀そのものが持つ美しさに魅力を感じるようです。ご存じのとおり琥珀とは樹木の樹脂が埋もれて化石化したものです。色は様々なものがあるようですが、「琥珀色」と呼ばれる代表的な色は人々を引きつける魅力を持っており、古より宝石としても世界的に珍重されてきた石の一つです。



体験風景

しかし、これらの体験の問題点として、一時間三十分程度と長い時間を要することでした。そこでより多くの方々に体験していただけるよう「勾玉作り」と「琥珀作り」体験では三十分程度で完成できる短縮コースも今年度より実施しました。また、五種類のアクセサリー作り体験を同年度内に全て体験された方に、ささやかな粗品を進呈するスタンプリーも実施しており、同様に好評を得ています。

是非、自分独自のアクセサリー作りに挑戦・来館ください。お待ちしております。

（風土記の丘資料館 野口）

商家

「草木による型染」

商家の呉服の店では、平成二十九年度の新規演目として、「草木による型染」の演目を実施しました。この演目は以前から実施していた「型染」の演目を発展させたもので、「型染」を二回以上受講した方を対象に開講しました。

「型染」の演目では藍染による染色を行っていましたが、「草木による型染」では藍以外の草木を使って染色を行います。二十九年度はウメを使用しましたが、今後様々な草木を使用していく予定です。

ここからは、「型染」と対比しながら、「草木による型染」の工程を紹介していきます。まず、日程ですが、「型染」、「草木による型染」ともに六日間の演目となっております。一年間かけて作品を作ります。

一日目は使う型紙を講師と体験者で選びます。「型染」は図案の作成や型紙彫りも行いますが、今年度の「草木による型染」は以前に体験者が彫った型紙を使用することとしました。

二日目は糊置きです。糊を置いて防染すること、模様を出します。

三日目、四日目は染色です。「型染」では藍染に生地を浸して染色を行います。が、「草木による型染」は引き染めという方法で染色を行います。引き染めは伸子と張り手を使って生地を張り、刷毛で染液や媒染液を引いて染めます。

五日目は蒸しを行います。染色用の蒸し

器に入れて蒸しを行うことで、発色を促します。



体験5日目「蒸し」の様子



水元が終わり、素敵な作品が出来上がりました

六日目には水元を行います。水元は糊を落とす工程です。

以上の六日間の日程で実施しました。藍による「型染」に比べて、「草木による型染」は色のムラが目立ちやすく、レベルの高い演目ですが、「型染」を複数回経験した体験者ということもあり、素晴らしい作品が出来上がりました。

また、三〜五日目の空き時間には図案の作成を行いました。体験者の今後の製作活動に活かしてもらえればと思います。

(商家グループ 市川)

トピックス展

「古地図を読み解く・千葉の陸運・水運」を終えて

昨年十二月十六日(土)から今年の三月四日(日)までの約八十日間開催した「古地図を読み解く」が終わりました。展示では県内外に残る地図や地誌をはじめ、当時運ばれていた、千葉県を代表する名産、醤油を詰めた樽、北総地域を象徴する米や炭を詰めた俵などを展示しました。

なかでも、房総のむらでは県内の名所・旧跡を巡る「町並み探検隊」を年二回実施しています。その土地の歴史や成り立ちなどを毎回、職員が調べ、成果を詰め込む「しおり」をあわせて展示しました。見学した方からは、かつて使用した「しおり」が欲しい、との声も聞かれ、好評でした。今年三月に行った香取市佐原でちょうど五十回目を迎えました。来年度は印西市・市川市



山中コレクション「三里塚駅」

を訪れる予定です。皆様のご予約お待ちしております。

(商家グループ 石毛)

ボランティア活動記

房総のむらがより楽しめる「ボランティアガイド」

房総のむらでは、ボランティアによるさまざまなガイドツアーを行っています。

まずは月一〜二回行っている「ガイドツアー」。商家町並みや武家屋敷、農家など、館内の見所を案内します。ただ歩くだけでは気が付かない、面白い話や情報を聞くことができます。もちろん、話を聞くだけでなく、質問をすることもできますので、お気軽にお申し込みください。英語が堪能なガイドもおりますので、外国人の方でもお申し込みが可能です。

次に、自然豊かな房総のむらの植物をもっと知りたい! という方には、「ボランティアによる自然観察会(毎月第二あるいは第三日曜・祝日などに開催)」がおすすめです。四季折々に咲く花や草木を詳しく知ることができます。訪れる度に新たな発見があることでしょう。草花の写真撮影が好きな方にもおすすめです。

●ガイドツアー: 十時三十分〜十二時三十分、十三時三十分〜十四時三十分

●ボランティアによる自然観察会: 十三時三十分〜十四時三十分(七八・九月は十時三十分〜十一時三十分)

(広報・普及グループ 蒲生)

平成三十年度春期まつり情報

むらのまつり

さくらまつり

四月七(土)・八日(日)に、さくらまつりを開催します。

房総のむらの約五十一ヘクタールの敷地内に、ソメイヨシノ、山桜、大島桜やしだれ桜など、三百本を超える桜を見ることができ、これらの桜を主役に、様々な催しを行います。また、隣のドラムの里でも、第十八回「栄町さくらまつり」を同時開催されますので、ぜひ一緒にお楽しみください。平成三十年度、初のおまつりを楽しんでいただけるよう、放下芸や玉すだれ、曲芸などの大道芸を上演するほか、桜と共に優雅な音に聞き惚れる箏の演奏も行います。また、桜の花を模ったかざぐるま作りや、



ぼうじろーとサクラいろいろガイド

桜のかざぐるま



ほのかな色味が可愛らしい桜色の葉書を作る紙漉き体験、館内の桜の種類について自然ガイドボランティアが解説する「サクラいろいろガイド」など、さくらに関する演目をご用意しております。

春の陽ざしを感じる暖かな一日をご家族やお友達と、房総のむらで過ごされてみてはいかがでしょうか。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

(広報・普及グループ 古山)

春のまつり

五月三日(祝・木)から五日(祝・土)のゴールデンウィークには「春のまつり」を開催します。新緑に彩られた館内のおまつり広場では、鯉のぼりが勇壮に空を泳ぎます。

独楽回しなどの昔の遊び体験や紙芝居、人気の「時代衣裳変身体験」、民俗芸能「鶴峯八幡の神楽」のほか、猿回し、手品、曲芸や軽業など、子どもから大人まで楽しめるイベントが目白押しです。

(広報・普及グループ 蒲生)

まつり開催時の注意事項

まつり当日は駐車場が大変混雑いたします。

平成三十年四月一日から十一月二十五日までの土・日・祝日は、JR成田駅西口四番乗り場から、九時四十五分と十時十分は房総のむらへの臨時路線バスも運行いたしますので、公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

また、館内はテント類の設置、ボール等の遊具の持ち込みは禁止です。ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

◆編集後記◆

二月は関東に大雪が降り、寒い日が続いていたのですが、三月に入ると急に暖かい日が増え、二十四日に館内のソメイヨシノが開花しました。

もし、まつり当日にソメイヨシノが残っていないなくても、館内には関山などの美しい桜が咲く場所がございます。ぜひ「サクラいろいろガイド」にお声がけください。

(広報・普及グループ 蒲生)

平成30年度 上半期のイベント

- さくらまつり
平成30年4月7日(土)・8日(日)
- 春のまつり
平成30年5月3日(金祝)～5日(日祝)
- トピックス展「学校と博物館」
平成30年3月10日(土)～6月10日(日)
- 考古学講座「中世から近世の龍角寺について」
平成30年6月3日(日)
- 夏休み親子宿泊
平成30年7月15(土)・16日(日)
下総の農家 7月21日(土)・22日(日)
申し込み締め切り平成30年5月9日(水)～5月19日(土) ※5月19日の消印有効。申し込みについてはホームページをご覧ください。
- 「千葉寺地区の遺跡展(仮)」
平成30年7月14日(土)～9月24日(月祝)
- 房総座「柳家三三落語会」
平成30年7月21日(土)
- むらの縁日・夕涼み
平成30年8月11日(土祝)・12日(日)